

講演会 & ライブ な日々 ③⑤

古川 秀明

『自殺防止と健康観察』

目的：K 中学校における生徒の自殺予防

中学生の自殺について

① 日本全体の現状

2022 年度版の政府による自殺白書によると、コロナが蔓延する前の 2019 年、女子中学生の自殺者は 46 人でしたが、感染拡大後の 2020 年には 69 人、2021 年には 74 人に増加。日本の自殺者数は 2022 年度で前年度比 4.2%(874 人)増の 2 万 1 8 8 1 人となり、2 年ぶりに増加。児童生徒の自殺は 2016 年から増加傾向が続いています。

2022 年度の小中高校生の自殺者は 5 1 4 人で初めて 5 0 0 人を超え、1 9 8 0 年の統計開始以降最多となりました。そのことに厚生労働省、文部科学省は強い危機感を持っています。

中学生の自殺は 2020 年度、2021 年度の 2 年連続 100 人を超え、その約 6 割が原因不明ですが、学業不振や入試の悩みなどが多くなっています。

特に 1 8 歳以下の自殺は、4 月の初めに大きく増加します。

また、令和 5 年 3 月 7 日に文科省より、各都道府県教育委員会に、児童生徒の自

殺予防に係る取り組みを実施するように指示が出て、各中学校に伝達されていることから、現在、児童生徒の自殺問題がいかに深刻なのかがわかります。

② K 中学校の現状

自殺の前兆である「自傷行為・リストカット」「自殺企図」「抑うつ症状」の相談が年々増えており、自殺未遂により、医療機関に繋げたケースも 2022 年度だけで 5 事例ありました。

K 中学校は 2021 年度における生徒数は 1073 人と大規模校であり、最近では一般的な規模である 300 人程度の中学校と比べて、自殺者が出る確率も必然的に高くなります。

スクールカウンセラー（以下 SC）の人数や時間数を増やすのは予算や制度の課題があり難しく、また時間や人員を増やしても、個別のカウンセリングだけでは生徒数の多さから、すぐに限界がきてしまう可能性が高いです。

SC として、学校マネジメントを考えるうえで、チーム学校の考えに基づき、個別カウンセリングだけではなく、学校全体として全校生徒の自殺防止に関するアセスメントの必要性を強く感じます。

その為の基礎資料として、生徒一人一人の日々の心と身体の状態を把握、分析し、自殺の前兆と思われる変化を早期に察知して、その対応策を講じることにより、K 中学校生徒の自殺防止に役立てたいと思います。

「なぜ、自殺防止のために、生徒の毎日の心と身体の様子を知りたいのか」

2016 年、2020 年に別の中学校で起きた生徒の自殺案件に関しても、2 名とも不登校ではありませんでした。しかも、そのうち 1 名はカウンセリングも受けていません。

また、他の中学生の自殺ケースを調べてみても、必ずしも不登校やカウンセリングにかかっていたこととの関連性が見つけられません。

つまり、毎日「普通に」登校している生徒が、自殺しているという現状があるということです。

それにも関わらず、現状ではカウンセリングや不登校生徒を中心に注意が払われ、毎日登校しているノーマークの生徒にはなかなか注意が向けられません。

K 中学校でも、自傷行為・自殺をほのめかす生徒の 8 割は不登校ではなく、毎日登校しています。

また 2022 年度に実施した教育相談アンケート（1 年、2 年対象）では、生徒の日々の悩みの 1 位は「成績のことがとても気になる」でした。

これは中学生の自殺三大要因と思われる「親の叱責」「家庭不和」「勉強、進路問題」と連動していますし、児童生徒の自殺原因として「学業不振や入試の悩みなどが多くなっている」という先ほどの文科省の報告と一致しています。

またその事実は、生徒指導提要（令和 4 年 1 2 月文部科学省・以下同じ）8・2・4 に記載されている、厚生労働省が発表した（「令和元年版自殺対策白書」）の、警察庁の資料を基に作成した統計結果とも一致しています。

厚生労働省（「令和元年版自殺対策白書」）

原因・動機別自殺者数の平成 21～平成 30 年の 10 年間の累計

中学生男子

「学業不振」（18.7%）

「家族からのしつけ・叱責」（18.1%）

「学校問題その他」（12.3%）。

中学生女子

「親子関係の不和」（20.1%）

「その他学友との不和」（18.3%）

「学業不振」（14.0%）

つづく

シンガーソングライター
ふるかわひであき